

## H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング

【施策番号 24123：脳科学総合研究事業（文科省）】

- 1 日時：平成 22 年 9 月 16 日（木） 13:55～14:25
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 12 階 共用 1208 特別会議室
- 3 聴取者：本席議員、奥村議員、相澤議員、青木議員  
外部専門家 6 名（うち若手 2 名）
- 4 説明者：理研 脳科学総合研究センター 岡本 仁 副センター長  
理研 脳科学研究推進部 小畔 敏彦 部長  
文部科学省 石井 康彦 ライフサイエンス課長

### 5 施策概要

脳・神経系の基本メカニズムを解明することにより、脳の発達障害・老化制御やアルツハイマー病、統合失調症、うつ病等の精神神経疾患の病因解明、治療・予防法の開発を可能にし、また失われた身体機能の回復・補完を可能とする技術開発をもたらすものであり、超高齢化社会を迎える我が国の医療・福祉の向上に貢献する。

### 6 質疑応答模様

【本席議員】

理研と大学の違いは。

【文科省】

大学は専門分野ごとに分かれているが、理研は凝縮した組織で分野間での融合研究が進むと考えている。

【本席議員】

競争的環境についてはどう作られているか。

【文科省】

厳しいレビューを行っており、それにより研究室の閉鎖もありうるし、資金配分も業績により左右される。

【本席議員】

理研脳科学総合研究センターほどの規模であれば、国際ベンチマーク等を参考にコストパフォーマンスについて意識してほしい。

【相澤議員】

戦略目標に対し、その実現のため、如何に研究を推進していくかが明確でない。

【奥村議員】

理研内での知識ベースの情報共有はどのようになっているか。

【文科省】

例えば、研究者がイメージング技術を習得したいと思った時、理研脳科学総合研究センターならば隣の研究室に行けば習得出来る。ゼブラフィッシュの研究者がマウスを使いたいと思った時も明日からでも使える。特に若手が交流できる環境がある。異分野の研究者が、物理的に近いところにいることが大きなメリットである。

【奥村議員】

予算減の状況下での組織改革等については。

【文科省】

2年前に組織改革を行い、「脳を知る」などの4分野均等体制から、4つのコア体制に改編し、国際的に勝負できる「神経回路の理解」に重点を置いている。このような重点化の方針の下、予算減については、ラボ数を減じることにより対応しているのが現状である。

【外部専門家】

脳科学総合研究センターは、非常によい成果を出している。今後はもっとオリジナルな成果が出るように努力してほしい。

【文科省】

承知した。

以上